

令和8年度事業計画

となりのすまいる保育園

となりのすまいる保育

2026年（令和8年度） 全体的な計画

園長	山澤				
----	----	--	--	--	--

法人理念		笑顔をふやす		保育理念	自分のことが好きなことも（養護） 自分のことができることも（教育）			幼児教育 において 育成すべき 資質・能力
保育目標		【自立心を育む3つの大好き】 ・からだを使うことが大好きな子 ・あたまを使うことが大好きな子 ・ひとと関わるのが大好きな子		令和8年度 法人テーマ	保育心得 ・時間と空間の制限を緩やかにする ・子どもたちの自由な挑戦を大切に ・目に見えない理由に寄り添う	令和8年度 園目標	3つのコンパス ・子どもたちの好きをみつけ、得意を伸ばす ・子どもたちのつぶやきを拾い、ともに保育をつくる ・体験知を大切にすること	
年齢別目標	0歳児	・心地よい生活の中で、よく食べ（飲み）、よく眠り、よく遊ぶ。			3歳児	・自分でできる喜びを味わい、友だちと関わることを楽しむ。		①知識及び技能の基礎 ②思考力・判断力・ 表現力等の基礎 ③学びに向かう力・ 人間性等
	1歳児	・探索活動を通して聞く、見る、触れるなどの経験をし、興味や好奇心をもつ。			4歳児	・意欲的に遊びや生活に取り組む中で、考えて行動する。		
	2歳児	・自己を十分に表しながら、何でも自分でやってみようとする。			5歳児	・友だちと協力しながら遊びや生活を展開し、充実感や達成感を味わう。		
保育の内容		0歳児		1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
基礎	生命の保持	・健康や安全に配慮し、一人ひとりの生活リズムを大切に、生理的欲求を十分に満たす。		・食欲や排泄、睡眠などの適切な時間を確保し、健康的な生活が送れるようにする。	・健康で安心できる環境の中で、意欲的に生活や遊びが継続できるようにする。	・自分でしようとする気持ちを大切に、基本的な生活習慣が身につくように見守る。	・健康で安全な生活に必要な習慣に慣れを持ち、自ら行えるよう援助する。	・生活習慣を身につけ、運動遊びに意欲的に取り組み、体力の向上を図る。
	情緒の安定	・一人ひとりの関わりを大切に、保育者との信頼関係を築く。		・自分の思いをくさや言葉で表す喜びを感じられるようにする。	・自己主張を丁寧に受け止め、保育者が仲立ちとなり、友だちとの関わりを広げる。	・自分なりの言葉で表現して、友だちと遊ぶ楽しさを感じられるようにしていく。	・主体的な活動を通して自覚性を高め、自信が持てるように働きかける。	・自分の力を発揮し、社会生活に必要な力を身につけて行動できるようにする。
	健やかに伸び伸びと育つ	・身体感覚が育ち、快適な環境に心地よさを感じる。 ・食事、睡眠等の生活リズムの感覚が芽生える。		健康 ・身の回りのことに興味を持ち、十分に体を動かして体幹が強い、感覚遊びを楽しむ。	・身の回りのことを自分からしよとする。 ・全身を使って遊んだり、散歩等、戸外を十分に歩く。	・十分に体を動かしながら、様々な用具や遊具を使った遊びを楽しむ。 ・必要に応じて午睡をとる。	・全身を使い、様々な道具や用具で工夫して遊ぶ。 ・生活に必要な習慣や態度を身につけて遊ぼうとする。	・目標をもって挑戦したり、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、様々な生活や遊びに意欲的に取り組む。
	身近な人と気持ちよく通じ合う	・安心できる環境の中で、身近な人と共に過ごす喜びを感じる。 ・体の動きや表情、声などにより、保育者と気持ちを通わせようとする。		人間関係 ・保育者を仲立ちとして、友だちとのやり取りを楽しみ、大人以外の人への関心をもつ。	・友だちと一緒に遊ぶ楽しさを知り、様々な遊びを通して友だちとの関わりが深まる。	・友だちと気持ちを伝え合ったり、関わりを深める中で、簡単なルールを付けて遊ぼうとする。	・自分の意見をもち、相手に伝える中で、相手の意見も聞いて受け入れる。	・友だちと協力する。 ・地域の人など、自分の生活に関係の深い人々に親しみをもち、関わりをもつ。
教育	身近なものと関わりが育つ 感性が育つ	・見る、触れる、探索する等、身近な環境に自分から関わりようとする。 ・身体感覚による認識が豊かになり、表情や手足、体の動きで表現する。		環境 ・保育者の応答的な関わりにより、言葉を理解し、簡単な言葉を使おうとする。	・様々な事象や出来事を通して、経験したことを自分なりに表現する。	・自然や事象に親しみ、自分から関わりをもつ。 ・自然や物事に触れて遊ぶことを楽しむ。	・身の回りの物の色・量・形などに関心をもち、数えたり比べたりする。	①健康な心と体 ②自立心 ③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え
	環境構成	・安全で快適なスペースを確保する。 ・掃除等を徹底し、清潔で衛生的な環境を維持する。		言葉 ・保育者の応答的な関わりにより、言葉を理解し、簡単な言葉を使おうとする。	表現 ・生活の中で、様々なものから刺激を受け、心ゆくまで関わることを楽しむ。	・様々な音や色、形や手触り、動きなどに気付く、感じたことを表現する。	・絵本、紙芝居、お話などを通じて、ストーリーや言葉のおもしろさに気づく。	・自分の考えを伝え、相手の話も聞き、折り合いをつけて遊びを発展させる。
	主な行事	入園式、慣れ保育、親子ふれあい遊び会、保育参加、ワークショップ、ウィンターフェスタ、卒園式		・自由に動き回れる広いスペースを提供し、探索活動を支援する。 ・順番待ちの経験を通して、社会性を育めるよう、場を提供していく。	・様々な遊び道具や絵本を用意し、興味を引き出す。 ・安全に走ったり跳んだりできるスペースを確保する。	・創造力を育むためのコーナーやブロック遊びのスペースを設け、自然に触れる機会を多く取り入れる。	・学びの場としてのコーナーを設け、より複雑な遊びや活動に対応できる多機能なスペースを提供する。	・絵画、工作、音楽等、創造力を刺激するための道具や材料を用意する。 ・跳び箱や縄跳びなどの運動器具を充実させる。
	社会的責任	厨房と保育の一体化		異年齢保育	インクルーシブ保育	長時間にわたる保育	職員員の資質向上	⑤社会生活との関わり ⑥思考力の芽生え ⑦自然との関わり・ 生命尊重 ⑧数量や図形・標識 や文字などへの関心・ 感覚
・子どもの人権に十分配慮するとともに、一人ひとりの人格を尊重した保育を行う。 ・子どもの個人情報等適切に取り扱うとともに、保護者の苦情等の早期解決に努め、説明責任を果たす。 ・地域社会との交流や連携を図り、園の保育理念や方針を適切に説明し、地域に開かれた園となるよう親和性を高める。		・栄養士、調理士等、厨房スタッフと保育者が協力し、子どもたちの食育と食生活の健康を統合することで、健康的な食生活の基盤を築くとともに、食に対する興味・関心を育てる。		・年齢という枠組みを超えて、互いに良い刺激を受けながら、子どもたちの成長を促す。 ・異年齢児との関わりによって、思いやりや相手を意識する気持ちなど、社会性や協調性を育む。	・全ての子どもたちが多様性を尊重されながら、安心して過ごせる環境を提供し、個々のニーズに応じた支援を行う。 ・全ての子どもたちが一緒に活動し、学び合うことで、互いの理解と絆を深める。	・子どもの発達、生活リズム、心身の状態等に配慮し、適度な運動、静かな時間、創造的な活動、卒園の準備、遊びの時間をバランスよく配置する。 ・子どもの疲れを受け止め、安心してくつろげる環境を提供し、健康と安全を第一に考える。	・すまいる委員会に設置する。人権監査委員会、コンプライアンス委員会の決議に従い、透明性の高い組織運営を行う。 ・自己評価に基づく課題を踏まえ、研修等を通じて職務内容に応じた専門性を高め、知識・技術の習得・維持・向上を図る。	⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現